

翔学校の創設を目指して

南九州大学 川島 海月

私は、子どもたちが誰 1 人置き去りにされることのない教育を実現するために翔学校を創設したいと考えています。そう思ったきっかけは、昨年2月から3月の2ヶ月間に行った、NPO 法人ドットジェイピー主催の議員インターンシップへの参加でした。国会議員インターンシップとは、インターン生として議員と活動を共にすることで議員の仕事や思い、政治と社会の繋がりを学ぶ体験活動プログラムのことです。

このプログラムを通して、平日は東京で、土日は宮崎で休む暇もなく様々な場所に出かけ、そして多様な人々と会話を交わし、社会的課題の解決に取り組む議員の姿に政治家の情熱や使命感を強く感じました。なかでも特に政治について考えるきっかけとなったのは、政策立案コンテスト「未来自治体」への参加です。ここでは、「もし、自分が知事、市長だったら」という前提で、政策を考え発表する政策立案コンテストがありました。この政策立案コンテストで仲間と共に、「翔学校の創設」を提案しました。翔学校とは、今まで皆さんが通ってきた小学校とは異なる学校です。翔（かける）に学校と書いて「しょうがっこう」と読みます。

この翔学校は、従来の学校とは異なる点が3点あります。まず1点目は、宿題です。子どもの能力に応じて選択できる7つの課題が提示されるアプリでの学習と自分の興味のあるテーマにそった探求活動が実施できる2つ課題が兼ね備えたRainbonという名前の新しい宿題に取り組むことで、個別学習の最適化、子どもの興味と可能性の拡大が期待できます。そして2点目は、新しい授業システムの構築です。授業を3つのコースに分け、自分の学習レベルにあったコースを選択することで一人一人の学習レベルに合わせた授業展開が可能になります。最後に3点目は、学校内に交流スペースを設置したアクティブラーニングの実施です。この交流ブースでは、Rainbonで行った探求活動の取組みについてテレビ会議システムを活用して、外国の学校や外部の企業に発表することができます。そうすることで、児童間や学校内に留まらないで、学校間交流ばかりではなく企業・地域とのネットワークの構築が期待できます。以上のように、現在の教育システムとは異なる取組みをすることで、認知能力だけでなく協調性や忍耐力といった多様な能力を育てることに繋がり、社会で活躍できる子どもを育てることができます。

しかしながら、私の力だけではこの翔学校の創設は実現することはできません。翔学校の実現には、県や国などの行政を巻き込んだ取組みが必要です。まずは、私の声を行政に届けなくてはなりません。その声を届ける1つの大きな存在となるのが議員です。インターン期間中、実際に地元住民と対話をし、生の声を聞くことでそれを政治の場に還元している議員の姿を目にし、その真摯な姿に感動さえ覚えました。私たちの声は持っているだけでは行政には届きません。届けるにはその思いや夢を共有できる議員に託さなければなりません。そして託すためには、私たちの持つ一票でその声を実現しようとする議員を支えなければなりません。という私も、実は選挙時には毎回親に促されて投票するだけでした。投票所に記載してある人の名前を見て記入するだけで、その人の政策や夢などを十分に知ることも理解することもなく投票をしていました。それがこのインターンシップを通して自分の思い

発表No. 5

や夢をただ持っているだけではなく、議員に託す投票行動の重要さとしてその一票の重みをより深く実感しました。

今後は、翔学校の創設という夢を託すために、各議員の思いや夢、そして政策を理解し大切な一票を投じたいです。私には、教師になる夢が実現した時に実践したいことがあります。それは、このインターンシップの経験を基に、子どもたちが政治や社会のことに関心を持ちそれを自分事として捉えた上で選挙などに主体的に参加する態度を養う主権者教育です。その実現のために、大学でしっかり学んでいきたいです。